

<NEXT21の緑化に関する事業活動>

1. 活動の目的

緑化による「緑量」だけではなく、特に緑地が少ない大阪市内における「自然環境の回復」を目的としています。

「生態系のネットワーク(緑の回廊)」をキーワードに、近隣にある大阪城公園、真田山公園、天王寺公園などの緑地とのネットワークを構成しています。回廊のように生物が飛来することができると考え、屋上や外構だけではなく、各階のベランダや共用廊下にも植栽を施し、横方向だけでなく縦方向にもつながる緑地を成形しています。(図1)

「緑の連絡会(※)」を中心に「自治会」との関係性を軸として地域へのかかわりを増やし、NEXT21が地域の緑地の起点となり、ウォークアブルな「まち」となることを目指しています。



図1：縦方向につながる緑のイメージ

※緑の連絡会とは・・・
「植木屋」「園芸屋」「バラの専門家」「清掃スタッフ」「管理人」「日本野鳥の会大阪支部」「NEXT21の生活者」「大阪ガス」といった立場の異なる8つのメンバーが集まり、緑地管理の情報交換をする会。

2. 環境への配慮

日本野鳥の会による定期的な野鳥の飛来調査に基づき、野鳥を呼び込むための環境や樹種を中心に補植の選定や管理の方向性を決めています。自然排水には住棟内で処理された生活排水を再利用する中水を利用し、敷地南側の中庭には循環水によるせせらぎを設けています。(写真1)

NEXT21の雑草や周辺の落ち葉、剪定枝を堆肥にする「緑のコンポスト」を設置しました。出来上がった堆肥は、NEXT21のみならず、地域の公園で利用できるよう自治体とも話を進めています。剪定枝は、昨年度のNEXT21の30周年記念イベントの来場者に、お祝いの旗の一部に活用してお配りしたり、NEXT21のシンボルツリーの「カスミザクラ」を挿し木にし、地域へ還元できるよう取り組んでいます。



写真1：南側の中庭のせせらぎ

3. 普及と啓発

近隣の玉造稻荷神社の宮司が中心となって普及活動をしている大阪の地元野菜「玉造黒門越瓜(たまつくりくろもんしろうり)」を弊社でも SNS の発信や種の配布などにより支援しています。毎年 NEXT21 でも居住者が屋上で育てており、収穫後には越瓜を使ったお料理をもちよる収穫祭を NEXT21 で開催しています。(写真2)

NEXT21 ではこれまで国内外から6万人を超える方が見学に来られました。近年では「生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪(イケフェス大阪)」「NEXT21の地域イベント」「NEXT21 学生アイデアコンペ」にて一般の方や若い方への見学機会を増やし、NEXT21の「緑」を体感していただいています。



写真2：玉造黒門越瓜の収穫祭

4.住まい手参加による維持管理

過去に植栽管理を居住者に任せる実験を行い、住民が前向きに共同作業しながらコミュニティが醸成されることを確認しました。コロナ禍でコミュニティが形成されにくかった近年は、「フジの手入れ」「バラの手入れ」の活動を住まい手がバラの専門家のサポートを受けながら、自らの「緑」に関わっています。過去より周辺道路や地上階、各階共用部の清掃を住まい手が1回/月ペースで集まり実施し、屋上のミニ菜園では、居住者が自主的に野菜などを育て、収穫まで行っています。(写真3)植栽の変化を実感でき、緑地管理の成功体験となり、他の住戸での花植え行動を誘発するなど次の活動のモチベーションに繋がっています。



写真3：屋上のミニ菜園での収穫

5.これから

住まい手の地域とのつながりや、維持管理への参加を今まで以上に積極的に取り組み、循環型社会を地域で構成するネットワークづくりを進めていきたいと考えています。また、NEXT21での緑化の取組をさまざまなイベントはSNSを通じて積極的に発信、紹介することで、大阪市内で緑のネットワーク拡大を目指しています。

身近な「知っている緑地」から「シンボリックな自分たちの緑地」となり、より良質な緑地や高い意識を持つ居住者が増えていくことに寄与していきます。



写真4：南側から見たエコロジカルガーデン